

---

# **最大級の勘違い**

ブンゲー部

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最大級の勘違い

### 【著者名】

ZZマーク

N1063F

### 【作者名】 ブンゲー部

### 【あらすじ】

幼なじみつて関係は、マンガなんかじゃ、素直に慣れない関係つて感じだけど、素直すぎるのもどうだろうな

(前書き)

ネタバレはしたくないが、  
、  
、

俺の幼なじみは、必要以上に男らしさ。まあそこが、俺があいつを、好ましいと思つてはゐるんだけど。

### ／最大級の勘違い／

あいつと俺は、同じ年、家が隣、親同士が仲がいいといつ、一步間違えればマンガのような展開に突入しちゃうような環境に生まれてきた。ちなみに、誕生日が三日違いと言つては、作為的なものを感じなくもないが、そんなことを親に聞けるわけもないが。

まあ、そんな訳であいつに会わない日なんて、この15年、数日しかない。

でも、そんな関係むけの春でおしまいになつたやつたんだけど。お互に別々の高校に進学しちゃつたからね。あいつは勉強はろくにできないが、運動だけはすぐしてスポーツ推薦で寮生活なんてしちやつてる。

逆に僕は、運動はからつきしで勉強だけはできるから、よく周りからは「コボコボ」なんて言われてたな。

なんて思い出に浸つても、あいつが帰つてくる訳でもないし、俺は俺で新しい環境を楽しんでる。あいつも、それなりに楽しんでるみたいだしな。

つて、思いながら高校生活を送ると思つてたんだが、

「なぜ、おまえがここにいるつ？」

俺の部屋でくつろぐあいつがいた。

「なぜつて、なんで？」いや、もういい。ここは本氣で、ここにいることが当たり前だと思っているんだろうな。

「いや、部活が休みだから、来てみた」

あー、そーかい。俺がバカだった。おまえはそんなやつだったよな。

「まあ、いいけど、俺これから知り合いと遊び行くけど、おまえも来るか?」

「いくいく! でも、いいの? ついてつて」

「別段問題がないから、言つてるんだよ。デートでもないし

「ふーん、ならいいけど」

「で、いつまでいるんだ?」

「いつまでつて?」

「着替えるから、出でけよ」

「別に、恥ずかしがることじやないでしょ」

「ああ、そうだよな」

まあ、俺とこ二つの仲だしな。

やっぱ連れてくるんじやなかつた。確かに、みんな楽しそうだから、それはいいけど、なんか必要以上に疲れた。なんだからって、「あの子と付き合つてるの?」

俺が女の子と話す度、聞いてくる。なにがそんなに気になるのやら。確かに幼なじみの恋愛事情は気になるんだろうが、それにしても過剰に反応しそぎ。

まあ、こいつもこいつで楽しにみたいだから、今日のところは許してやるか。

「今度、この近くで大会あるんだよね。よかつたら、みんなで応援に来てよ」

「どうか、いつの間にかみんなと仲良くなつてるし。」

というわけで、大会の口。俺は会場に友達と来ていた。

「で、おまえはなんで、大会になんて俺たちを呼んだ訳?」

「いや、おまえが誰とも付き合つてないって言つからせ」

「そうこうことね。まあ、そういうことなら協力しないこともない。」

「で、もしこの大会、優勝できたら、『デートしたい人がいて「はいはい、わかったよ」

』の間、『いつが気にしてた奴はわかる。『いつに話はつけと/or>

てやるよ。

「まあ、そういうことだ」

「わかつたよ。頑張れよ。あそこから応援してるから、またな」

「ああ」

大会は進み、決勝戦。あいつは無事、進んでこれた。まあ、あいつの実力からすれば、こんな大会で優勝するのも簡単なんだろうけど。

予想通り、あいつの優勝で試合は終わった。

「よつしや、勝つたぞ。おい、約束覚えてるよな？」

「ああ、覚えてるよ。さつき、ちゃんと話して、オッケーもらってるよ。それに彼女もおまえのこと、気になつてるらしいぞ」

「なんの話だ？ 僕がデートしたいのは、おまえだよ、おまえ」「なにいつてるんだ？ 僕たち、男同士だぞ？」

「それがどうした？ 僕はおまえが好きなんだ。愛してるんだっ！」

「いや、だつて、俺はてつきり

どうやら俺たちは、最大級の勘違いをしていたらしく。まあ、それはそれで過ぎたことだ。

「なにか違う気がする」

「いーや、れつきとしたダブルデートだ。ただ相手のカップルが女の子同士で、なんとなく男女で行動してるだけだ」

「まあ、いいや。いつか絶対に振り向かせてやる。絶対にな」

「おまえじゃなく、かわいい女の子に言つてもらえたなら、幸せなんだがな」

そんな悪態をつきつつ、俺はそんな悪い気はしなかつた。

なぜかつて？ 実は俺もガキの頃から、こいつのことが好きだつ  
たからさ。

{ H A P P Y e n d ?

(後書き)

なんか最後のほう、ぐだぐだになつたような感じですが、これもまた愛嬌で

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1063f/>

---

最大級の勘違い

2011年10月5日05時27分発行